

「地理総合」における喫緊の課題等に関する アンケートのお願い

日本地理学会高校地理教育に関わる会員

及び全国の高校地理教育並びに歴史教育・公民教育関係者 各位

日本地理学会は2019年7月と2020年2月に、「地理総合」に関わるアンケートを実施し、両アンケートとも100名を超える関係者（学校数では90数校）からの回答を得ることができました。ご協力有り難うございました（2019年実施分は本委員会HP <https://www2.dokkyo.ac.jp/rese0018/> で公開中掲m2020年実施分は準備中）。

ご承知のように、2022年度から高校等において必履修科目「地理総合」が実施されます。ほとんどの学校では、すでに「地理総合」を含む新しい教育課程が決まり、「地理総合」の教科書採択が終了した段階と推察されます。

その一方で、学校現場では、依然として「地理総合」を指導することに対する不安や、担当教員を対象とした研修体制の充実を求めるご意見などが少なくありません。

そこで、半年後に新教育課程の実施を控えた今般、そして、日本地理学会会員だけに止まらず広く全国の高校教育関係者に呼びかけて、「地理総合」における喫緊の課題等についてアンケートを実施し、その結果を踏まえ、実施直前はもとより、実施後における継続的な支援・研修体制の構築と充実に役立てたいと考えております。

上記の趣旨をご理解いただき、皆様には、通常の指導に加え、新型コロナウイルス感染への対応などで多忙を極めているなかで恐縮ですが、11月15日までに下記URLからご回答をよろしく願いいたします。また、ご所属の各都道府県地理教育研究団体、地理歴史科・公民科教育研究団体などを通じて、これまで地理科目のない学校や地理を専門とする教員のいない学校の関係者等、ぜひ多くの方にご協力いただけるよう呼びかけていただければ幸いです。なお、お寄せいただいたアンケート回答は、統計的に処理し、回答者個人のお名前や勤務先などの情報が公表されることはありません。

2021年10月1日

公益社団法人日本地理学会 地理教育専門委員会

委員長 井田仁康

第25期日本学術会議 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会

委員長 井田仁康

〔回答者の属性〕

* メールアドレス *

今後、本委員会・分科会が行う調査などに 利用可 不可

* 回答者のお名前 *

* 回答者のご所属（学科までご記入ください） *

* 学校規模 1～3 学級／学年（年次） 4～8 学級／同 9 学級以上／同

* ご所属の所在地（都道府県・市町村名） *

* 教員としての勤務年数 *

5 年未満

6～9 年

10～19 年

20 年以上

* 主な専門

主に地理

主に歴史

主に公民

〔授業イメージと喫緊の支援〕

I. 採択見本の教科書などをご覧になって想定される授業のイメージと、実施にあたって、特に必要と感じている支援についてお聞きします。各中項目については、以下、1～5まで、同様の選択肢でお尋ねします。

1. 内容 A (1)「地図や地理情報システムと現代世界」の授業についてお聞きします。

1-1. 最も重点をおくと想定される授業はどんなイメージですか？1つ選んでください。

教員が、教科書の記述をもとに地図や GIS について講義する活動が主になる授業

教員が、ICT 機器などを使って地図や GIS について示範する活動が主になる授業

生徒が、ICT 機器などを使って地図や GIS について作業する活動が主になる授業

まだよく分からない

1-2. 授業にあたって、現在、特に必要と感じている支援を、次のうちから2つまで（「その他」も含む）選んでください。

地図や GIS の基本的な知識とその入手先などに関する情報提供

手軽に入手・操作できる地図や GIS の種類とその入手先などに関する情報提供

地図や GIS の基本的な操作に関する実践的な研修

- 地図や GIS を使った教材作成に関する実践的な研修
- 地図や GIS の基本的な操作や教材作成に関する YouTube などネット上の研修動画
- この内容に関する授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他（ 記述欄 ）

2. 内容 B (1)「生活文化の多様性と国際理解」の授業についてお聞きします。

2-1. 最も重点をおくと想定される授業はどんなイメージですか？1つ選んでください。

- 教員が、教科書の記述をもとに世界各地の生活文化について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、世界各地の生活文化の内容を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、世界各地の生活文化を調べ、国際理解の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

2-2. 授業にあたって、現在とくに必要と感じている支援を、次のうちから2つまで（「その他」も含む）選んでください。

- 中学校で、世界や日本の地誌について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 世界の生活文化についての様々な知識とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他（ 記述欄 ）

3. 内容 B (2)「地球的課題と国際協力」の授業についてお聞きします。

3-1. 最も重点をおくと想定される授業はどんなイメージですか？1つ選んでください。

- 教員が、教科書の記述をもとに地球的課題について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、地球的課題と国際協力の現状を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、地球的課題を調べ、国際協力の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

3-2. 授業にあたって、現在とくに必要と感じている支援を、次のうちから2つまで（「その他」も含む）選んでください。

- 中学校で、地球的課題について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 地球的課題やその解決のための国際協力に関わる最近の動向とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の授業実践例とその入手先に関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他（ 記述欄 ）

4. 内容 C (1)「自然環境と防災」の授業についてお聞きします。

4-1. 最も重点をおくと想定される授業はどんなイメージですか？1つ選んでください。

- 教員が、教科書の記述をもとに自然環境について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、世界や日本の自然災害や防災対策を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、世界や日本の自然災害を調べ、防災の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

4-2. 授業にあたって、現在とくに必要と感じている支援を、次のうちから2つまで（「その他」も含む）選んでください。

- 中学校で、自然環境や自然災害について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 自然環境や自然災害の基本的な知識とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画とその入手先などに関する情報提供
- 地域の事例を使った自然災害や防災対策の教材作成に関する実践的な研修
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他（ 記述欄 ）

5. 内容 C (2)「生活圏の調査と地域の展望」の授業についてお聞きします。

5-1. 最も重点をおくと想定される授業はどんなイメージですか？1つ選んでください。

- 教員が、教科書の記述をもとに地域調査の内容や方法について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、文献やインターネットから得られる統計資料などを使って地域を調べ、発表する活動が主になる授業

- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、発表する活動が主になる授業
- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、持続可能な地域づくりの視点から課題を設定し、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

5-2. 授業にあたって、現在とくに必要と感じている支援を、次のうちから2つまで（「その他」も含む）選んでください。

- 中学校で、地域調査について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 地域調査の内容や方法に関する実践的な研修
- この内容の教材作成に利用できる地域の統計資料などとその入手先に関する情報提供
- この内容の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他（記述欄）

6. 授業全体に関わって、現在とくに必要と感じている事項を、次のうちから3つまで（「その他」も含む）選んでください。

- 「地理総合」を担当する教員の確保
- GISなどの指導に必要な機材や設備の整備
- 「地理探究」の教科書に関する情報提供（構成や内容）
- 大学等入試の出題に関する情報提供（国公立二次・私大での出題や問題の内容など）
- 観点別評価の内容や方法などに関する情報提供
- 教材づくりなど、授業準備に充てる時間の確保
- GISやフィールドワークなどの作業的、体験的学習に必要な授業時間の確保
- 地理の授業について相談できる同僚や専門家などの相談相手
- その他（記述欄）

[教育課程]

II. 2022年度教育課程における「地理総合」などの履修についてお聞きします。
勤務校全体または回答者が最も多く授業を担当している学科でお答えください。

1. 地歴・公民科科目の設置の有無、履修学年（年次）はどうなっていますか？*

- 勤務校全体 ○学科

	1 学年 (年次)	2 学年 (年次)	3 学年 (年次以上)
地理総合	○	○	○
地理探究	○	○	○

歴史総合	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
日本史探究	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
世界史探究	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公共	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

●上記の設問で、「地理総合」の履修学年(年次)を「3学年(年次)以上」と回答した方にお聞きします。

1-1. 「地理総合」の履修学年(年次)を「3学年(年次)以上」に決めた最も大きな理由は何でしょうか？*

- 学習内容が3学年(年次)以上で適切と考えたから。
- 教科または学校全体の教育課程の中で、他の地歴科科目、他教科目との関係考えたから。
- 現行の教員構成(人数、専門科目など)は、担当できる教員がないから。
- その他(記述)

●上記の設問で、どの学年(年次)にも「地理探究」をチェックしなかった方[「地理探究」を設置しない]にお聞きします。

1-2. 「地理探究」を設置しない最も大きな理由は何でしょうか？*

- 地歴科他科目、他教科目との関係で、教育課程に設置する余裕がないから
- 設置しても担当できる教員がないから。
- 地理に興味・関心を持つ生徒が少なく、設置しても選択者が極めて少ないと推測されるから
- 大学等の入試で地理科目を選択する生徒が少ないと推測されるから
- その他(記述)

2. 「地理総合」の授業担当者はどうなる可能性が高いでしょうか？複数回答可*

- もっぱら地理を専門とする若手(教職経験10年未満)の教員
- もっぱら地理を専門とする中堅以上(教職経験10年以上)の教員
- もっぱら歴史や公民を専門とする若手(教職経験10年未満)の教員
- もっぱら歴史や公民を専門とする中堅以上(教職経験10年以上)の教員
- 専門に関わりなく、クラス担任など履修学年(年次)担当の教員
- まだ分からない

3. 勤務校全体の地歴・公民科の構成教員の内訳を教えてください。*

専門	0人	1人	2~4人	5人以上
地理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
歴史	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公民	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[教科書の採択]

Ⅲ. 「地理総合」の教科書採択についてお聞きします。(任意回答)

勤務校全体または回答者が最も多く授業を担当している学科でお答えください。

1. 採択が決まったのはどの教科書ですか？

勤務校全体 学科

701 東京書籍『地理総合』⇒1-1へ

702 実教出版『地理総合』⇒1-1へ

703 帝国書院『高等学校 新地理総合』⇒1-1へ

704 二宮書店『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』⇒1-1へ

705 二宮書店『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』⇒1-1へ

706 第一学習社『高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる』⇒1-1へ

履修学年(年次)の関係から、まだ採択は決まっていない

1-1. 主な採択理由は何ですか？

学習指導要領の趣旨をよく反映した内容や構成になっているから

生徒の興味・関心を高める内容や構成になっているから

(地理教員以外を含む) 教員が教えやすい内容や構成になっているから

中学校教科書との連携を考えた内容や構成になっているから

従来の指導内容や指導方法を大きく変えずに授業ができそうな内容や構成になっているから

大学等の入試に対応した内容や構成になっているから

指導書や副教材、ホームページなど教科書出版社のサポートが充実しているから

その他(記述)

1-2. 勤務校または所属学科では、どのような形で採択する教科書が決まりましたか？

地理を専門としている教員がおり、その教員が意見をもとに決まった。

地理を専門とする教員がいるが、主に歴史や公民を専門とする教員の意見をもとに決まった。

地理を専門とする教員がおらず、歴史や公民を専門とする教員の意見をもとに決まった。

その他(記述)

[勤務校のICT環境]

Ⅳ. 小・中学校ではGIGAスクール構想によってICT環境が整備されつつありますが、高校などでは多くの学校でICT環境の整備が進まず、以前から「地理総合」実施上の課題の一つであると指摘されています。国や自治体への働きかけの手がかりとなる資料として、勤務校のICT環境の現状についてお聞きします。

1. 「地理総合」の地図やGISの指導などに利用できるICT設備の状況はどうなっていますか？

- 設備があって、教員が教材を示したり、生徒が学習活動で使ったりできる。
- 設備があって、教員が教材を示すことはできるが、生徒が学習活動に使うことはできない。
- 教員や生徒が授業で利用できる設備はないが、近く整備される予定がある。
- 教員や生徒が授業で利用できる設備はなく、近く整備される予定もない。
- その他（記述）

[その他]

V. 本アンケートの趣旨に関連する情報や、日本地理学会等へのご意見・ご要望をお持ちでしたら、以下にお書きください。

ご協力ありがとうございました。アンケート結果は、まとめ次第、日本地理学会地理教育専門委員会HPなどで公開する予定です。

[参考資料]

現在、日本地理学会や日本学術会議地理教育分科会などでは、「地理総合」の実施にむけて、次のような取組（公開予定を含む）を行っています。

- 研修会や講演などへの講師派遣 [地理教育専門委員会]

URL : <https://www2.dokkyo.ac.jp/rese0018/>

- 研修会、講習会の開催案内やマガジン（登録が必要です。無料）の発行、読者コミュニティなどのコンテンツがあるフォーラムの開設 [地理教育フォーラム]

URL : <https://geoeducation.publishers.fm/>

- 教材研究や教材作成ための研究者による参考資料集 [教材素材集]

※2021年10月開設予定。開設は地理教育フォーラムの中でお知らせします。